

## 熊本県における大麦「ニシノホシ」の栽培法

山戸陸也・橋口昭彦<sup>1)</sup>・堀 孝弘<sup>2)</sup>・身次幸二郎<sup>2)</sup>(熊本県農業研究センター球磨農業研究所・<sup>1)</sup>阿蘇農業改良普及センター・<sup>2)</sup>熊本県農業研究センター)Michiya YAMATO, Akihiko HASHIGUCHI, Takahiro HORI and Koujirou MITSUGI :  
Cultivation Methods of Barley "Nisinohosi" in Kumamoto Prefecture

大麦「ニシノホシ」の栽培法を確立するため、施肥法および播種法の試験を行った。

## 1. 材料および方法

試験は菊池郡合志町の熊本県農業研究センター農産園芸研究所と球磨郡上村の球磨農業研究所で行った。

## 試験1：施肥法

「ニシノホシ」を用い、1996年～1997年(播種年)に試験を行った。球磨農業研究所での試験区の構成は第1表のとおりとし、化成肥料の分施および被覆尿素肥料の全量基肥施用について試験を行った。播種時期は11月20日、播種量は6kg/10aとした。

## 試験2：播種法

供試品種は「ニシノホシ」を用い、試験は1998年～1999年(播種年)に行った。球磨農業研究所での試験区の構成は第2表のとおりとした。

なお、試験1、試験2ともに堆肥200kg/a、エンリッチケイカル20kg/aを施用し、踏圧は12月下旬と2月中旬の2回、培土は1月下旬に1回行った。

## 2. 結果および考察

## 試験1：施肥法

菊池地域では、10a当たり窒素成分で基肥5kg、追肥を1月下旬に2kgと2月下旬に2kgの2回施用する区が収量が高く(データ略)、球磨地域では基肥5kg、追肥を2月下旬に2kg施用する方法が多収となった。

また、被覆尿素肥料は窒素成分で7kg/10aを全量基肥施用することで化成肥料分施と同等の収量が得られた。

## 試験2：播種法

播種時期は菊池地域、球磨地域ともに11月20日が安定して多収になった。11月10日播種は6kg播種で11月20日播種に近い収量が得られ、成熟期も4～6日早くなり、精麦成分(澱粉、蛋白)も11月20日播種と同等であった。12月10日の播種では、10kg播種でも11月20日播種の83%程度の収量しか得られなかった。

第1表 球磨農業研究所での施肥法試験区の構成と収量

試験区名	基肥	追肥1 (1/28)	追肥2 (2/16)	追肥3 (2/26)	整麦重 (kg/a)	収量比 (%)
球磨慣行	0.5		0.2		34.0	100
追肥遅施	0.5			0.2	36.3	107
2回追肥	0.5	0.2		0.2	35.4	104
基肥減肥	0.3	0.2		0.2	35.5	104
被覆尿素1	0.7				35.5	104
被覆尿素2	0.9				34.0	100

注) 被覆尿素区は緩効率40%、窒素溶出期間50日(水田)の被覆尿素肥料を全量基肥施用した

第2表 球磨農業研究所での播種法試験における生育および収量(1998～1999年播種麦の平均)

播種時期 (月. 日)	播種量 (kg/10a)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	出穂期 (月. 日)	成熟期 (月. 日)	整麦重 (kg/a)	収量比 (%)	千粒重 (g)	倒伏程度 (0～5)	精麦の成分(%)	
											澱粉	蛋白
11.10	6 kg	89	6.4	752	3.31	5.19	65.5	95	38.9	0.3	85.1	9.9
11.10	8 kg	90	6.4	843	3.31	5.19	64.1	93	37.6	0.8	84.3	11.1
11.10	10 kg	89	6.4	783	3.31	5.19	64.7	94	37.5	0.9	83.6	11.6
11.20	6 kg	91	6.7	722	4.06	5.24	68.8	100	43.0	0.9	85.5	10.7
11.20	8 kg	92	6.8	744	4.06	5.24	68.7	100	41.3	1.4	85.4	11.4
11.20	10 kg	91	6.5	805	4.05	5.24	68.1	99	40.4	0.9	84.8	10.4
12.10	6 kg	88	7.3	514	4.14	5.30	51.2	74	47.2	0.0	83.2	12.5
12.10	8 kg	90	7.1	568	4.14	5.29	54.3	79	46.8	0.2	83.5	12.0
12.10	10 kg	90	6.8	595	4.14	5.29	57.1	83	45.8	0.3	84.5	11.7

注) 精麦の成分は1999年播種の麦を65%搗精後分析、乾物換算値